

# 昼夜間定通独立校整備検討委員会報告書

平成17年3月

昼夜間定通独立校整備検討委員会

はじめに

定時制・通信制教育は、昭和23年の新しい学校教育制度により開始され、働きながら学ぶ生徒に広く教育の機会を提供してきたが、近年の社会情勢の変化に伴い、就労形態が多様化するなど、定時制・通信制教育を取り巻く環境が大きく変わり、その対応が求められた。

そうした中、徳島中央高校では、平成10年4月に単位制を導入するとともに、定時制課程に昼間部を設置するなど、教育の多様化や弾力化に取り組んできたところである。

その結果、一定の成果を得てきたものの、社会環境の変化とともに、多様な生徒が入学しており、これまでの教育形態や教育内容では、生徒のニーズに十分対応しきれない状況となっている。さらに、生徒数の増加に伴い、施設の狭隘さなどから、多様な教育活動の展開に制約が生じている。

一方、高等学校としての従来の役割に加え生涯学習の観点から、社会人の学習意欲に応える教育機関としての役割も求められている。

こうした状況を踏まえ、平成14年2月に策定された「徳島県高校教育改革推進計画」において、徳島中央高校を見直し、整備する方向性が示された。

本委員会は、これを受けて平成15年7月に徳島県教育委員会から、新しい昼夜間定通独立校のあり方についての検討を依頼され、生徒の一層の多様化やニーズの変化などの視点から、幅広く検討を進めてきた。

ここに、本県の昼夜間定通独立校のあり方について、とりまとめたので報告する。

# 目 次

はじめに

第1章 徳島県における定時制・通信制教育	1
1 現 状	1
(1) 学校数の推移	1
(2) 生徒数の推移	2
2 課 題	2
第2章 徳島中央高校における定時制・通信制教育	3
1 沿 革	3
2 設置状況	3
3 生徒の状況	4
(1) 多様な生徒の入学	4
(2) 生徒数の増加	4
(3) 入学志願倍率の推移	5
(4) 進路の多様化	5
(5) 働きながら学ぶ生徒の減少	5
(6) 生徒の意識調査	6
4 教育の特徴	6
(1) 単位制	6
(2) 3修制	6
(3) 3部制	7
(4) 多様な生徒の受け入れ	7
(5) 弾力的な単位認定制度	8
5 課 題	8
(1) ハード面の整備	8
(2) ソフト面の整備	8
第3章 新しい定通独立校の設置	9
1 学校づくりの基本的な考え方	9
2 目指す学校像	9
3 育てたい生徒像	9
4 教育システム	10
5 設置学科	10
6 キャッチフレーズ	10

第4章	新しい定通独立校の教育課程	11
1	教育課程編成の基本方針	11
2	定時制課程の取り組み	11
	(1) 多様なニーズへの対応	11
	(2) 基礎・基本の重視	13
	(3) 体験的学習の重視	13
	(4) 豊かな人間性の育成	13
	(5) 地域に根ざした活動	13
3	通信制課程の取り組み	14
	(1) 多様なニーズへの対応	14
	(2) 基礎・基本の重視	14
	(3) 体験的学習の重視	15
	(4) 豊かな人間性の育成	15
	(5) 地域に根ざした活動	15
第5章	教育環境の整備	16
1	グラウンドや駐車場の整備	16
2	多様な生徒に対応した施設の整備	16
3	環境に配慮した施設の整備	16
4	ユニバーサルデザインに対応した施設の整備	16
5	高度情報化社会に対応した施設の整備	16
6	その他	16
第6章	開校までの取り組み	17
1	計画的な取り組み	17
2	併設校の整備	17

おわりに

## 資料

- ・本文資料は、徳島県教育委員会教育調査報告書により作成した。
- ・本文中に右肩に\*印の付いている用語については、巻末に解説をしている。なお、\*印は、その用語が最初にでてきたところのみ付けている。

# 第1章 徳島県における定時制・通信制教育

## 1 現 状

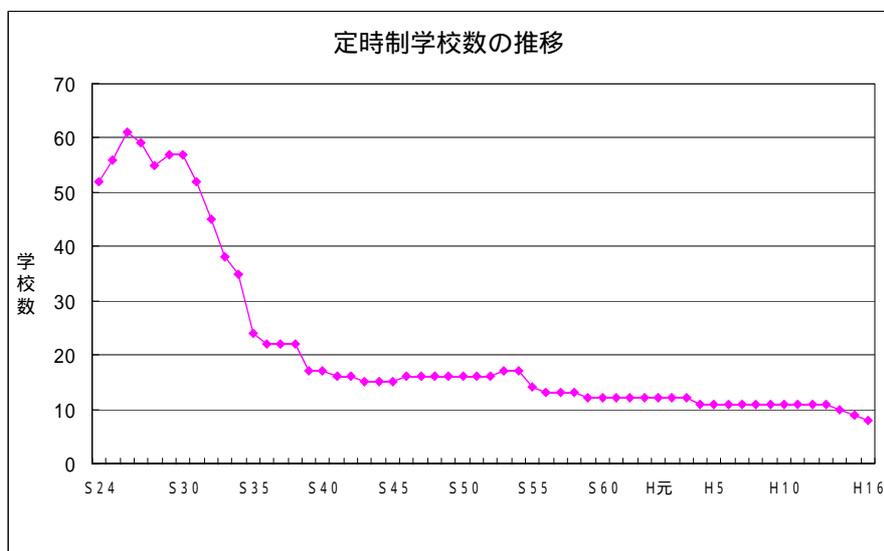
徳島県における定時制・通信制教育は、主に働きながら学ぶ生徒に広く教育の機会を提供し、高校教育、生涯教育の一環として、重要な役割を果たしてきた。

しかし、全日制課程への進学率の高まりや生徒のニーズが変化する中で、教育の多様化や弾力化に取り組んできたところであるが、働きながら学ぶ生徒だけでなく、これまで以上に生徒の多様化が進んでおり、さらなる対応が求められている。

### (1) 学校数の推移

定時制課程の高校は、設置された当初、併設校18校、分校34校の52校であったが、昭和30年頃から、定時制高校の再編成により学校数は大きく減少した。平成16年度の学校数は、独立校1校、併設校4校、分校3校の8校であるが、このうち分校3校については、募集停止に伴い廃校となることから、平成17年度には5校になる。

また、通信制課程の高校は、2校でスタートしたが、統合を経て、現在徳島中央高校1校となっている。(資料1)



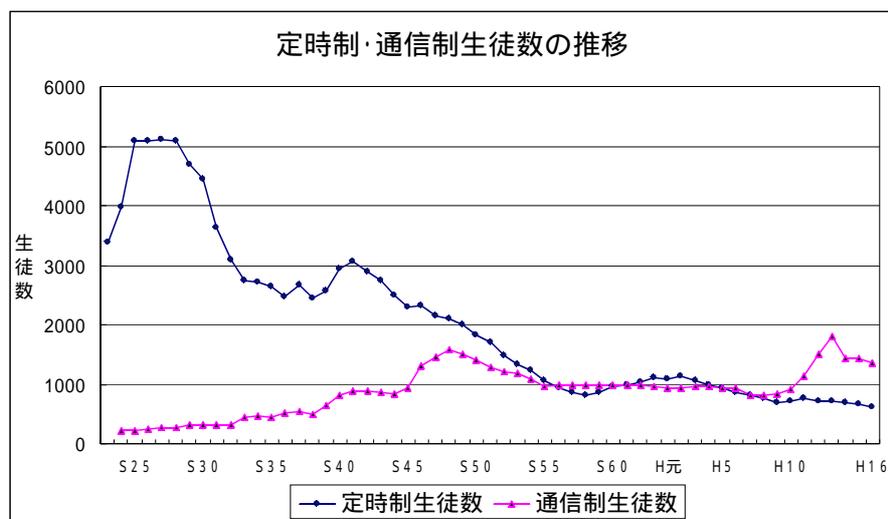
学校数 / 年度	S 2 4	S 3 0	S 4 0	S 5 0	H 元	H16
定時制学校数(うち分校数)	52(34)	57(38)	17(10)	16(9)	12(7)	8(3)
通信制学校数	2	2	1	1	1	1

(学校数には分校を含む)

## (2) 生徒数の推移

昭和25年当時、定時制課程の生徒数は、5,000名を超え、県下における全生徒数の約24%であった。その後、定時制課程が全日制課程に移行されたことにより、生徒数は大きく減少し、平成16年度には、628名となり、全生徒数の約3%になる。

一方、通信制課程の生徒数は、約200名でスタートしたが、その後の高校進学率や近年の生涯学習へのニーズの高まりの中で、平成16年度には、1,369名となっている。



## 2 課題

定時制・通信制高校では、年齢、職業、学習歴等において、様々な生徒が入学しており、その中で、働きながら学ぶ生徒、中途退学や不登校などで新たな学習の場を求めている生徒、生活スタイルに合わせて自主的に学びたい生徒等が在籍し、多様化が進んでいる。

こうした多様な生徒を受け入れ、それぞれの個性と能力を伸ばさせる場としての定時制・通信制高校のもつ意義は大きいものがあり、生徒のニーズに対応したきめ細かな指導を充実させ、教育の改善を図ることが強く求められている。

併設校である富岡東高校など4校については、小規模化しており、教員数の制約などによる様々な課題があるが、教育内容の工夫などにより多様な教育の展開が求められる。

一方、本県の定時制・通信制教育の中核を担う徳島中央高校は、今後、生徒の多様化とともに、その重要性が増すと考えられ、教育のあり方が問われている。

## 第2章 徳島中央高校における定時制・通信制教育

### 1 沿革

徳島中央高校は、昭和53年に、城東高校、徳島工業高校、徳島東工業高校にそれぞれ併設する定時制課程と城南高校に併設する通信制課程を統合し、定時制・通信制の独立校として開校した。

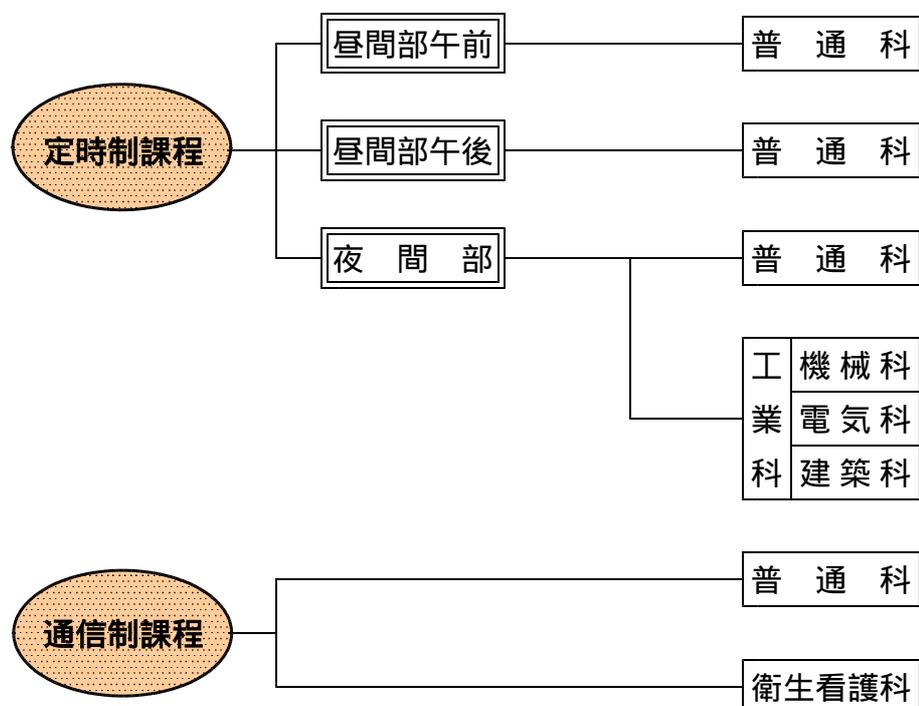
平成10年に、徳島県教育振興審議会の答申「新しい時代に対応する高校教育の多様化、弾力化、活性化について」に基づき、単位制を導入するとともに、定時制課程に昼間部を設置した。その際、開校当初から設置されていた通信制課程の家政科は廃科、定時制課程の商業科は募集停止となった。

### 2 設置状況

定時制課程は、昼間部と夜間部からなり、昼間部は午前と午後の2部分かれ、ともに普通科である。

夜間部には、普通科と工業科があり、工業科には、機械科、電気科、建築科の3学科がある。

通信制課程には、普通科と技能連携制度を取り入れた衛生看護科がある。



### 3 生徒の状況

#### (1) 多様な生徒の入学

定時制課程，通信制課程においては，近年，働きながら学ぶ生徒に加えて，全日制中途退学者，中学校時代に不登校を経験した生徒，過去に高校教育を受ける機会に恵まれなかった社会人等の入学者が増加しており，生徒の多様化が一層進行している。

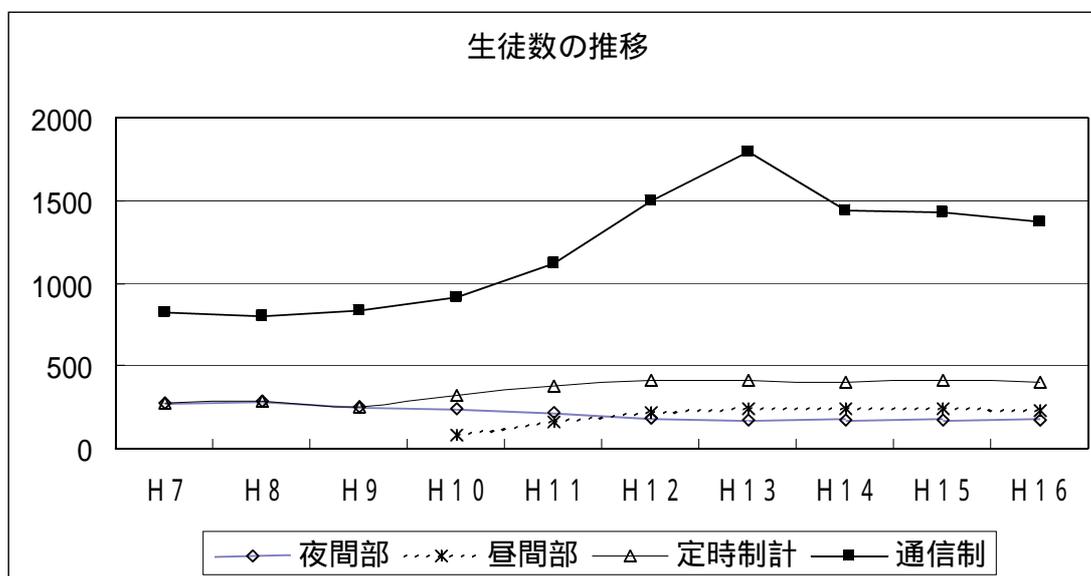
平成16年度において，入学生のうち過年度生の割合は，昼間部8%，夜間部20%，通信制課程64%で，全日制課程0.34%と比較し高い状況にある。（資料2）

また，通信制課程においては，10代から60代までの幅広い年代の生徒が学んでいる。（資料3）

#### (2) 生徒数の増加

定時制課程の生徒数は，平成10年度に昼間部を設置したことにより増加し，平成16年度は，400名となっている。

通信制課程についても，単位制，3修制等を導入したことにより入学生が増加し，現在1,369名が在籍している。

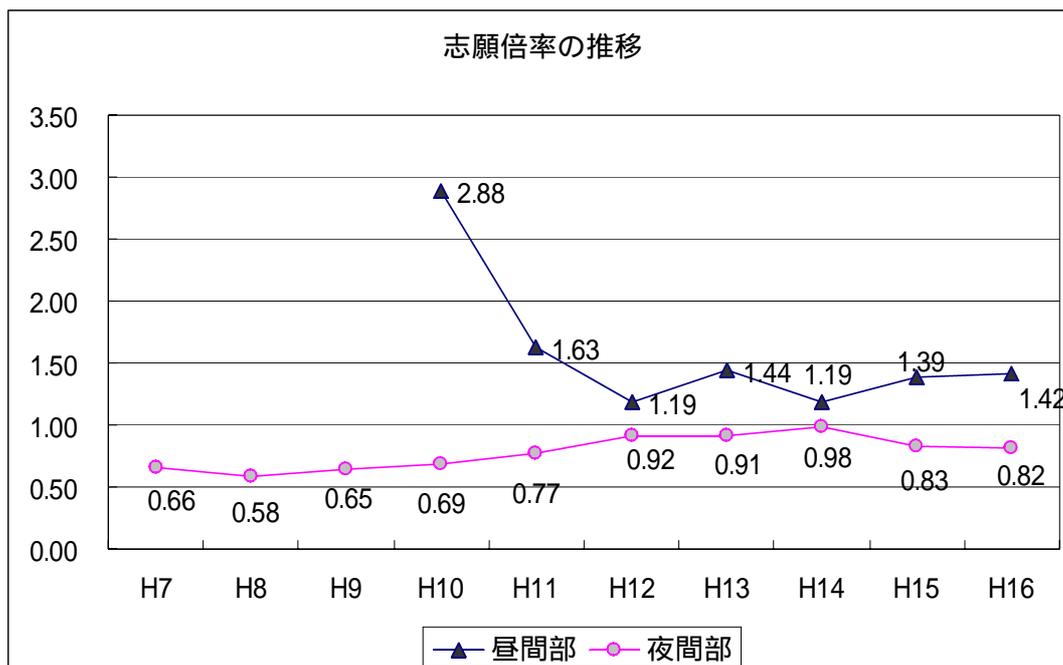


課	程	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
定時制	夜間部	279	287	254	236	222	188	175	168	169	174
	昼間部				80	159	220	239	235	240	226
	計	279	287	254	316	381	408	414	403	409	400
通信制		820	804	834	918	1124	1495	1791	1441	1432	1369

### (3) 入学志願倍率の推移

夜間部の募集目標に対する志願倍率は、0.6倍程度で推移していたが、昼間部の設置や単位制、3修制を導入したことなどにより、平成12年度以降は募集目標に近い志願者数を確保している。

昼間部の志願倍率は、新設時の平成10年度入試では、約3倍であったが、翌年度から入学定員を増やしたことにより、1.4倍程度で推移している。



### (4) 進路の多様化

卒業後の進路については、大学、短大、専修学校等への進学や事業所等への就職と多様化している。平成16年3月に卒業した生徒について、専修学校等を含めた進学状況は、昼間部41%、夜間部21%、通信制課程8%となっている。また、両課程とも進路未決定を含むその他が多くなっている。(資料4)

### (5) 働きながら学ぶ生徒の減少

平成16年5月における夜間部生徒の就業状況は、正規雇用及び自営業・手伝いは9%、アルバイトは31%で、就労している生徒は、40%となり、10年前の67%と比較し、働きながら学ぶ生徒が減少している。

(資料5)

#### (6) 生徒の意識調査

平成15年8月に徳島中央高校全生徒を対象として、現在の学校についての考えや、新しい学校に期待することなどのアンケートを実施した。アンケート結果の主な内容は、次のとおりである。

徳島中央高校への入学を決めた理由として、「高校卒業の資格を取るため」と答えた生徒が定時制課程、通信制課程ともに多く、また、入学前に徳島中央高校のことについては、「知らなかった」と答えた生徒が、両課程とも過半数を超えている。

次に、退学したい、他の高校へ変わりたい、と思ったことがあるかとの質問については、「思っていない」と答えた生徒が、昼間部68%、夜間部80%、通信制課程86%であり、徳島中央高校へ入学したことについて「よかった」と答えた生徒は、両課程ともに約80%となっている。

新しい学校に期待するものについては、定時制課程では、午前や午後あるいは夜間の授業が受けられること、前期あるいは後期だけで単位が取れることなどである。通信制課程では、インターネットを活用した授業が受けられること、不登校傾向の生徒がもっと自由に入学できることなどである。(資料6)

### 4 教育の特徴

#### (1) 単位制

学年の区分がなく、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度であり、過去に修得した単位を卒業に必要な単位に含めることができる。

単位制を生かし、大学入学資格検定<sup>\*1</sup>や技能審査<sup>\*2</sup>の成果などの弾力的な単位認定や、転編入学生<sup>\*3</sup>の受け入れを実施している。

#### (2) 3修制

3年間での卒業を可能とする制度であり、定時制課程では、通信制課程との併修(定通併修)により、また通信制課程では、スクーリング<sup>\*4</sup>時の開設科目を増やすことにより実施している。

生徒は希望により、3修制、4修制を選択している。

(3) 3部制

定時制課程では，生徒の進学希望や生活スタイルなどにあわせ選択できる  
よう，昼間部午前，昼間部午後，夜間部の3部制としている。

(4) 多様な生徒の受け入れ

転編入学生の受け入れ

転編入学生については，過去に在籍した高校で修得した単位を最大限  
に生かすこととしている。定時制課程では，教室の大きさ，募集定員な  
どから，受け入れる生徒数に制約がある。

社会人の受け入れ

定時制課程では，入学希望者の実情に応じた入試制度の改善により，  
20歳以上の受検者は，従来の学力検査の代わりに，作文で受検できる。

科目履修生の受け入れ

生涯学習の観点から，一部の科目の履修を希望する社会人を科目履修  
生として受け入れている。

特に夜間部の工業科では，第3種電気主任技術者，建築士などの資格  
取得や技術の習得を目的として，工業の専門科目だけを受講する生徒を  
受け入れている。

技能連携生の受け入れ

技能連携とは，技能教育施設で教育を受けているとき，その施設にお  
ける学習を高校の教科の一部履修とみなすことができる制度である。

通信制課程では，県立看護学院と技能連携をしている。

不登校傾向の生徒の受け入れ

通信制課程では，不登校傾向の生徒に対応するため，スクーリングの一部として，学校のビデオ教材等の活用により学習の機会を提供している。

#### (5) 弾力的な単位認定制度

定時制課程と通信制課程では，大学入学資格検定による科目合格を高校の単位として修得したものとみなし，卒業に必要な単位数に含めている。

さらに，定時制課程では，技能審査の成果や就業体験活動<sup>\*5</sup>などの学校外における学修等を単位として認定している。

### 5 課 題

#### (1) ハード面の整備

定時制昼間部や通信制課程の生徒数の増加，3修制に伴うスクーリング日の開設などから，両課程の授業の重なる日には，教室や体育館など共用施設の使用について制約が生じている。また，グラウンドがないことから，体育や部活動の展開にも制約が生じている。

さらに，高齢者や障害者が幅広く利用できる駐車場やエレベーターの設置など，バリアフリー化への対応が求められる。

このようなことから，施設・設備の充実，改善が必要である。

#### (2) ソフト面の整備

現在，定時制課程では，入学時に生徒の希望に応じて，昼間部午前，昼間部午後，夜間部を選択するが，入学後の生活環境等の変化に合わせ，他の時間帯の授業が受講できないなどの状況があり，弾力的な履修形態の導入が必要である。

また，単位制を生かした様々な制度を導入しているが，今後，転編入学生の後期受け入れや，前期・後期の単位認定など，生徒の多様なニーズへの対応として，単位制を十分に生かす制度の導入が求められる。

さらに，不登校傾向の生徒の受け入れなど，多様な生徒に応じた教育の展開や，生涯学習社会に向けた対応などが必要である。

### 第3章 新しい定通独立校の設置

これまでの意見集約を踏まえ、次のとおり新しい定通独立校のあり方を提案する。

#### 1 学校づくりの基本的な考え方

今後ますます多様化が進む生徒のニーズに対応し、だれでもいつでもどこでも学べる学校づくりを目指すため、次の2つをコンセプトとする。

- ・学ぶ意欲のある生徒の学習機会の確保
- ・個に応じた多様な学びの実現

#### 2 目指す学校像

- ・自主的に学習し、基礎的・基本的な学力の定着・伸長が図れる学校
- ・多様な能力、適性を持つ生徒を伸ばし育てる学校
- ・いろいろな生徒がともに学び、互いに認めあえる学校
- ・生徒が行きたい、学びたいと思える学校
- ・規範意識や礼儀作法などを身に付け自立した社会人を育てる学校
- ・一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる学校

#### 3 育てたい生徒像

- ・基礎的、基本的な学力を身につけた生徒
- ・生涯学習社会で生き抜く力を身につけた生徒
- ・望ましい勤労観、職業観を身につけた生徒
- ・社会人としての規範意識を身につけた生徒
- ・豊かな人間性を身につけた生徒

#### 4 教育システム

(1) 単位制

修得した単位を最大限に生かすことができる単位制とする。

(2) 修業年限

3年以上とする。

(3) 学期

前期，後期の2学期制とする。

#### 5 設置学科

(1) 学科

普通科とする。(定時制課程)

普通科，衛生看護科とする。(通信制課程)

[夜間工業科は，新設する総合技術高校(仮称)に設置する。]

(2) 学習形態

昼間部，夜間部を設置し多部制とする。(定時制課程)

(3) 学校規模

1学年4～5学級程度とする。(定時制課程)

総定員1,200人とする。(通信制課程)

#### 6 キャッチフレーズ

**君が輝く，新しいステージ。**

それぞれのスタイルで，めざす夢の実現

学ぶ意欲と熱意を持つ人が，だれでもいつでもどこでも学べる学校

## 第4章 新しい定通独立校の教育課程

目指す学校像や育てたい生徒像を実現させるため、教育課程編成にあたっての基本方針を次のとおりとする。この基本方針に基づき、定時制課程、通信制課程において、具体的な取り組みを行うこととする。

### 1 教育課程編成の基本方針

- (1) 多様なニーズへの対応
  - ・柔軟な学習形態の導入
  - ・3修制の導入
  - ・多様な生徒の受け入れ
  - ・多様な選択科目の設置
- (2) 基礎・基本の重視
  - ・多様な指導形態の導入
  - ・基礎・基本科目の充実
- (3) 体験的学習の重視
  - ・望ましい職業観の育成
  - ・規範意識の醸成
- (4) 豊かな人間性の育成
  - ・ホームルーム活動の充実
  - ・相談機能の充実
  - ・学校行事、部活動及び生徒会活動の活性化
- (5) 地域に根ざした活動
  - ・開かれた学校づくり
  - ・地域、家庭との連携

### 2 定時制課程の取り組み

#### (1) 多様なニーズへの対応

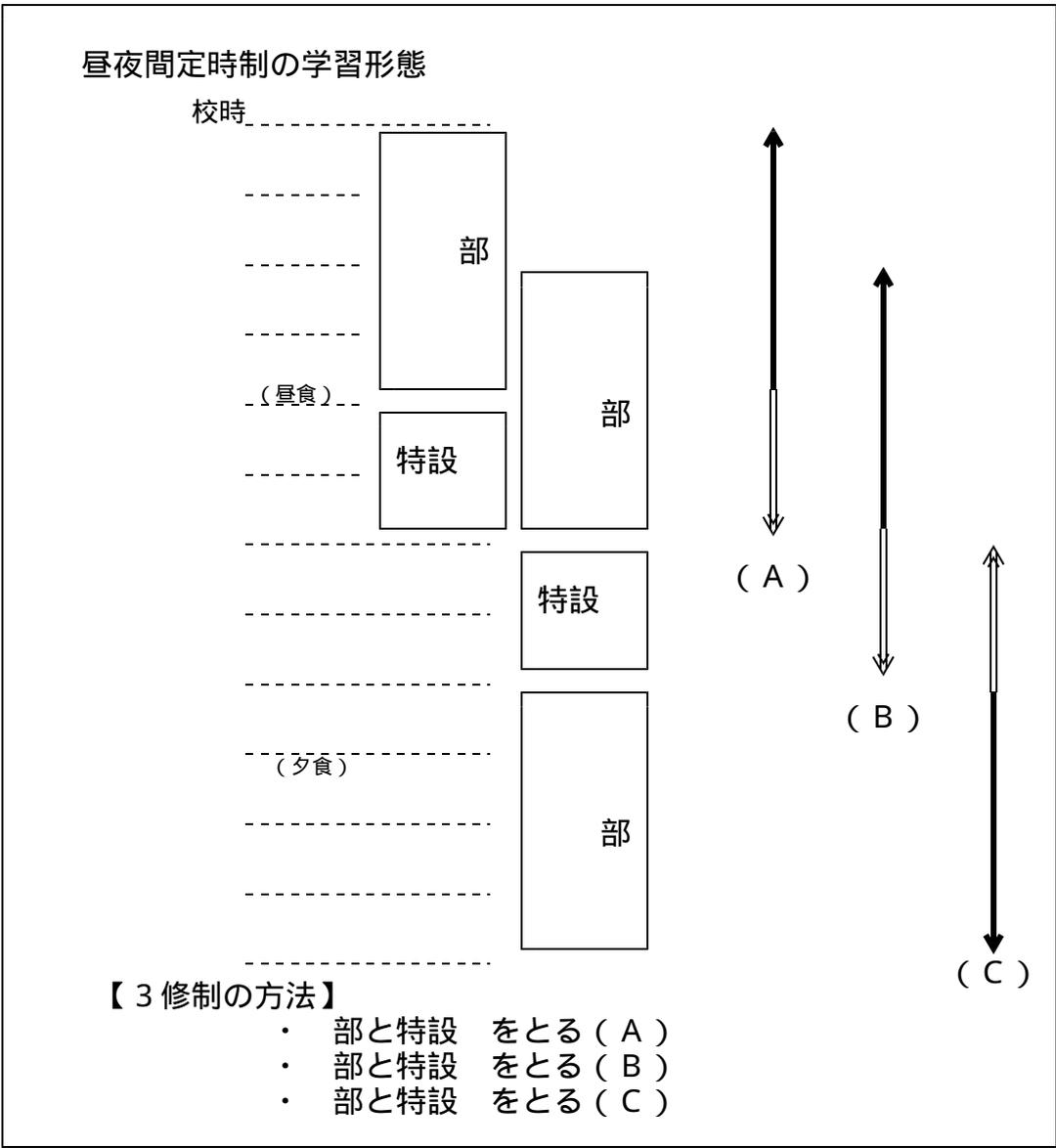
学習形態は3部制とし、授業を12校時開講することで、学ぶ生徒の生活スタイルに合わせた学習を可能にする。部は、午後から働く生徒、部は、遠くから通学する生徒など、ゆとりを持った登校を希望する生徒、部は、従来の昼間働き夜学ぶ生徒を、主に対象とする。

3年間での卒業については、部に属する生徒は、特設の授業を、

部と部の生徒は、特設の授業を受けることを基本にするが、大学入学資格検定の科目合格や、技能審査の成果をはじめとした学校外における学修等を単位認定することによっても可能にする。(資料8)

現在、中途退学者を含む転編入学生を受け入れているが、2学期制による単位分割認定や単位制を生かした無学年制の時間割編成などを取り入れることにより、後期からの受け入れを可能にする。

また、特色ある科目や学校設定科目<sup>\*6</sup>などを設置し、生徒の多様な学習ニーズや興味・関心、進路希望等に対応する。



(2) 基礎・基本の重視

基礎学力の定着を図るため、数学、英語などの教科で、少人数授業を展開するなど、一人ひとりの能力に応じた、きめ細かな指導を行う。

また、国語基礎、英語基礎など、学校設定科目を設置し、基礎・基本科目の充実に努める。

(3) 体験的学習の重視

就業体験の実施や、キャリアガイダンス<sup>\*7</sup>により、望ましい職業観を育成する。

また、校外におけるボランティア活動などの体験的学習を通して、社会に貢献できる生徒を育成するとともに、マナー等に関する学校設定科目により、社会人として求められる規範意識を醸成する。

(4) 豊かな人間性の育成

単位制では、ホームルームへの帰属意識が希薄になりやすいことから、できるだけホームルーム単位で受ける授業を多くすることにより、心の居場所としてのホームルームづくりを行う。

カウンセリングやガイダンスなど、相談機能を充実させ、学校生活への円滑な適応を図る。

さらに、異年齢をはじめとした多様な生徒との交流を通して豊かな人間関係づくりを行うため、学校行事、部活動及び生徒会活動を定時制課程だけでなく、通信制課程との合同実施が可能な活動時間帯を設置する。

(5) 地域に根ざした活動

地域の人たちを対象とした生涯学習講座を開設し、開かれた学校づくりを推進する。その際、講師として地域の人材を積極的に活用する。

また、ホームページなどを通して、地域、家庭との連携を深めるとともに、学校に対する理解の推進に努める。

### 3 通信制課程の取り組み

#### (1) 多様なニーズへの対応

スクーリングについては、自宅等でのインターネットを活用した学習により、その一部を免除することや、スクーリング時の開設科目を増やすことにより、3年間での卒業をこれまで以上に可能にする。

レポートについては、ホームページの有効利用を図り、パソコンを介してレポートの提出や添削を可能にすることなど、レポート指導の多様化を図る。

大学入学資格検定による科目合格の単位認定のほか、技能審査の成果やボランティア活動<sup>\*8</sup>などを単位認定するとともに、定時制課程において履修した科目の単位認定を行う通定併修を導入する。また、3年間での卒業を希望する県内定時制高校の生徒に対しては、引き続き定通併修による単位認定を実施する。

不登校傾向の生徒の受け入れについては、視聴覚機器の効果的な運用により、多くの生徒を支援できるように努めるとともに、転編入学を希望する生徒に対しては、後期受け入れを可能にすることや、無学年制の時間割編成により効率的な科目履修ができるように努める。

選択科目については、生徒の実態等に応じた学校設定科目を設け、多様なニーズに対応する。

#### (2) 基礎・基本の重視

多様な指導形態の導入を図るとともに、基礎学力の定着に向け実施している学習支援講座<sup>\*9</sup>の充実に努める。

また、個に応じた面接指導やレポート指導を通して、わかる授業を展開するとともに、電話や電子メールなど、いつでも相談を受け入れる体制を整える。

自学自習をサポートする手段としての、e - ラーニング<sup>\*10</sup>の導入を総合教育センターと連携して検討する。

(3) 体験的学習の重視

ホームルーム活動におけるキャリアガイダンスや体験的な学習を通して望ましい職業観を育成する。

また、マナー等に関する学校設定科目により、社会人として求められる規範意識を醸成する。

(4) 豊かな人間性の育成

スクーリング時にホームルームの時間を設け、帰属意識を高めるとともに、コミュニケーションを重視し相互理解を深めるなど、ホームルーム活動の充実に努める。

また、不登校傾向にある生徒等が学校生活に円滑に適應できるよう、入学前後の個別面談やカウンセリング等を行う。

幅広い交流を目指し、学校行事、部活動及び生徒会活動の活性化を図るため、定時制課程との合同実施が可能な活動時間帯を設置する。

(5) 地域に根ざした活動

科目履修生の受け入れや地域の人を外部講師とする講座の開設など、開かれた学校づくりを進め、生涯学習機関としての機能を高める。

地域、家庭との連携を深め、学校への理解を推進するためホームページの充実に努める。

## 第5章 教育環境の整備

新しい定通独立校では、多様な生徒のニーズに対応した、次のような教育環境の整備が必要である。

### 1 グラウンドや駐車場の整備

屋外での体育の授業や部活動が実施できるグラウンドの整備が必要である。また、高齢者、障害者や仕事をもつ定時制夜間部の生徒が通学しているため、駐車場の充実も必要である。

### 2 多様な生徒に対応した施設の整備

多様な選択科目を展開するための教室、空き時間に利用できる自習室、不登校等の生徒支援としてのカウンセリングルームや個別学習室、部活動のための部室等、多様な生徒に対応した施設の整備が必要である。

### 3 環境に配慮した施設の整備

環境負荷を減らし、環境に優しい施設・設備の整備が求められる。

### 4 ユニバーサルデザイン<sup>\*11</sup>に対応した施設の整備

高齢者や障害者などすべての人が利用しやすいユニバーサルデザインに対応した施設の整備が必要である。

### 5 高度情報化社会に対応した施設の整備

レポート指導やスクーリングの多様化に対応するため、ネットワーク対応のパソコン機器などの整備が必要である。

### 6 その他

夜間の定時制課程が設置されていることや、高齢者、障害者が通学していることから、新しい定通独立校は、より交通の利便性の高い立地条件が求められる。

## 第6章 開校までの取り組み

### 1 計画的な取り組み

新しい定通独立校については、教室やグラウンドの確保など、できるだけ早期の移転・改築が望まれるが、厳しい財政状況の中、今後の施設整備に当たっては、一定期間を要することが予測される。

このようなことから、移転・改築を待つまでもなく、新しい学校の基本方針に基づき、多様な生徒のニーズに対応できるよう教育内容の充実を図るなど、実施可能なものから計画的に取り組んでいくべきである。(資料9)

### 2 併設校の整備

全日制高校4校に併設されている定時制課程については、新しい定通独立校の開校に合わせ、生徒の進学希望や社会情勢を踏まえ、今後、具体的な集約化などを検討する必要がある。(資料10)

おわりに

本委員会は、徳島中央高校を見直し、今後ますます多様化する生徒のニーズに応えるため、より柔軟な教育システムなど新しい時代に対応した昼夜間定通独立校のあり方について検討してきた。

その中で、「学ぶ意欲のある生徒の学習機会の確保」と「個に応じた多様な学びの実現」を新しい学校のコンセプトとして提案した。

このコンセプトに基づき、定時制・通信制教育のあり方や教育環境の充実等について審議を進めてきた。

今後の取り組みとして、新しい教育への円滑な移行を図るため、この報告書に基づき実施可能な取り組みを計画的に推進していくとともに、開校までに教育制度や社会情勢の変化など、新たな状況が生じた場合は、柔軟かつ的確な対策を講じるべきである。

今後、本県における定時制・通信制教育の果たす役割は、ますます重要となることから、新しい教育の推進に当たっては、県教育委員会はもとより、学校長や教職員をはじめとした関係者の努力により、生徒が夢と希望をもって学ぶことのできる昼夜間定通独立校が実現することを強く期待する。